

掲載日：2010年2月9日

丹沢ボラネット瓦版 2009年12月号 No.73

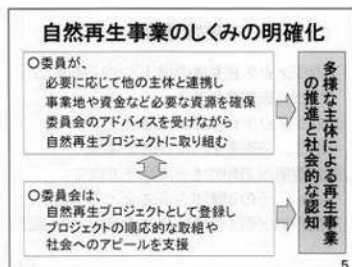
新たな「丹沢自然再生プロジェクト推進制度」について

丹沢大山自然再生委員会は、自然再生事業のしくみを明確化し、多様な主体による自然再生事業の推進と社会的な認知を図ることを目的とし、「自然再生プロジェクト推進制度」を立ち上げました。

プロジェクト推進制度の実施にあたっては、丹沢大山自然再生基本構想に則って、再生委員会を構成する委員・団体＝僕らの立場では「丹沢ボラネット」が主体となるのが前提になります。そして、その委員が単独または所属団体が取り組む自然再生事業（以下「再生プロジェクト」）を、委員会に登録し承認されたうえで、この名称を付けた事業を実施することになります。

この制度に登録するには、その委員が、書面（提出には所定の書式あり）で申し出た段階で、再生委員会、県及びその他の関係者との事前調整を経ることになります。この事前調整の段階で、県計画（丹沢大山自然再生計画等）との協調連携、自然公園法等の法令への適合についての確認を行います。

提案された各事業は、丹沢大山自然再生基本構想との整合と実行可能性を確認された段階で、再生プロジェクトとして登録し、共働事業が開始するわけです。



再生プロジェクトは、その事業を主催する団体の責任で実施するわけですが、再生委員会もその責任を負うことから、必要に応じて、委員などが加わる場を設けるなどして、委員会との連携を図りながら事業を行っていくこととなります。

委員会に登録・承認されることで、実施団体は、再生プロジェクトを推進するにあたって、事前調整・実施途中・報告見直し等の各段階において、再生委員会から各種支援を得ることが、最大のメリットになります。

再生委員会の行うことのできる支援として考えられるものは、1)事業を行う場所などの確保に関するコーディネート、2)他の主体からの情報提供、技術協力、連携等のコーディネート、3)再生プロジェクトへの委員の参加、4)事業報告会やワークショップなどの開催、5)委員会のホームページなどによる情報発信、などがあげられます。

当然、報告の義務があり、原則として毎年、事業の実施状況と次年度の事業計画を委員会に報告することが必須になります。文書での報告書も提出することになるとは思いますが、それだけでなく、ひろく市民に対して公開する報告会の実施が望まれています。

新たな制度は、2009年11月から実施されることとなり、「サントリー天然水の森」事業がその第1号になると思われます。ただ、こうした企業のプロジェクトだけでなく、われわれ市民団体の行っている丹沢再生に係わる事業も対象となっていますので、各団体の行っている事業が再生プロジェクトとして登録可能かどうか、一度見直していただければと思います。

このプロジェクト推進制度の詳細については、来春開催の総会付随行事において、その内容を説明する予定であります。

（奥津 昌哉）

報告

丹沢大山自然再生委員会 （第8回 09-2）

（開催日時： 11月26日 10時～12時15分 横浜・神奈川県建設会館）

- 1) 自然再生プロジェクト推進制度について： 新たに「自然再生プロジェクト制度」を設け、より広範に民間団体などとの協力を図り、丹沢の自然再生事業の推進と社会への認知を働きかけるために、活動していくこととした。サントリー天然水の森事業は、この制度の最初の事業となる。

- 2) サントリー「天然水の森 丹沢」事業について： 丹沢再生計画における「統合再生流域東丹沢1」地域（県有林約500ヘクタール）を対象に、サントリー天然水の森事業と県との協働事業について検討し、承認した。県との協力協定書は、12月中に締結することになる。
サントリーは、主に、土と水と生き物のつながりに着目した研究、森林の保全管理を行う。これらは、県と連携し、前記研究の共同推進、森林の保全方法や活用についての実践などを事業として行っていく。
- 3) 東丹沢トレイルレースについて： 主催者（岳連）より実施報告があった、585名の参加とのこと。また次年度も催行するとのことである。

（奥津記）

世話人会（第3回 09-3）

（12月3日 18時30分～ 於：本厚木 出席者：奥津・平野・小野・金子・大用・山中・大木）

- ・保全センターで計画している環境学習の進め方、各種講座等の説明があり、意見交換を行った。
 - ・再生委員会報告として、上記委員会の内容が説明された。
- 終了後、忘年会を開催しました。

行事案内

丹沢フォーラム 「丹沢山地のブナ林の再生に向けて」

<共催> 丹沢大山自然再生委員会・自然環境保全センター・丹沢自然保護協会

日時： 2010年1月9日（土曜日）14時～17時

会場： 神奈川県中小企業センタービル13階

プログラム：

- 1) 講演：丹沢の大気環境 / 若松伸司（愛媛大学）
- 2) 事業報告会：丹沢山地のブナ林衰退機構解明と再生への取り組み（丹沢山地のブナ林衰退実態・ブナハバチの大発生原因・大気汚染のブナ衰退への影響・ブナ林再生への取り組み） / 自然環境保全センター
- 3) 丹沢フォーラム：県民協働による自然再生への取り組み / 丹沢自然保護協会

参加費： 無料 定員：100名（申込み先着順、定員を越えた場合のみ連絡します）

申込み： 氏名・所属・連絡先を記して、丹沢フォーラム事務局 奥津方 宛に

丹沢写真館（たんざわしゃしんかん）



自然環境保全センターでは、丹沢資料保存会が所有する昭和初期からの丹沢の懐かしい風景を記録した写真の展示会を開催しています。以前眺めたことがあるような懐かしさのある集落、今は見ることのできないたざまいなど、時代とともに移り変わる丹沢の原風景をご覧ください。

日時： 11月1日（日曜日）～2010年1月31日（日曜日）予定 9時～16時30分

注）休館日 月曜日（祝日の場合は開館します）、祝日の翌日、年末年始（12月28日～1月4日）

場所： 自然環境保全センター 2階展示ギャラリー

入場料： 無料

協力> 丹沢資料保存会

フィールドスタッフ体験教室 Bコース「自然観察会の企画・運営」

フィールドスタッフの自然観察会での活動を実際に体験します。午前は自然観察会を体験し、午後はグループごとに自然観察会の企画書を作成します。

日時： 2010年2月20日（土曜日）10時～15時30分

場所： 自然環境保全センター

人数： 30名

申込み： 2月9日までに往復はがきにて、下記自然保護課宛に申し込む

総合調査報告書ホームページから公開

丹沢大山総合調査学術報告書・資料が12月10日から[自然環境保全センターホームページ](#)で公開されました。本冊をお持ちでない方は一度ご覧下さい。

目次： グラビア / 1背景と調査計画 / 2生き物再生調査 / 3水と土再生調査 / 4地域再生調査 / 5情報整備調査 / 6特定課題の解析、資料

別冊： 丹沢大山動植物目録

東丹沢で初の山岳マラソン「東丹沢トレイルレース」開催



丹沢山地東部では初めてとなる山岳マラソン「東丹沢トレイルレース」が23日、宮ヶ瀬湖畔園地（清川村）をスタート、ゴールとする約33.5キロのコースで行われた。レースは、県山岳連盟（大曾根弘会長）を中心とした実行委員会の主催で、県内外から男女585人が参加した。全参加者は、午前8時ごろに宮ヶ瀬湖畔園地を出発。林道や登山道「東海自然歩道」を経由して同園地に戻る高低差約1100メートルのコースに挑んだ。制限時間は7時間で、9割以上の580人が完走した。

実行委は、レース後の登山道を点検するなど自然環境への影響を見極めながら、今後も年1回程度の開催を目指している。来年は4月に開催の予定。

< 神奈川新聞2009年11月24日より >

【編注】

マラソン終了後のコースの環境調査は自然環境保全センターが行うことになっており、どのような報告がなされるかその結果も注目されます。

また、丹沢自然再生委員会で検討をすすめるという「丹沢ガイドライン（仮）」がどのようなものになるかについても、今後を待ちたいと思います。

お知らせ

世話人会

次回世話人会は、3月4日（木曜日）18時30分～ 海老名市民サポートセンターで

議題：総会の関連議案（事業報告・計画、役員改選、他）について、その他

2010年総会

総会は2010年4月4日（日曜日）13時～ 自然環境保全センターレクチャールームにて開催します。

自然環境保全センターホームページ（下記）からボラネット瓦版を公開しています

<http://www.pref.kanagawa.jp/osirase/05/1644/main.html>

ボラネット瓦版の電子版

ボラネット瓦版の電子版を希望される方は、どなたにでも配信いたしますので、下記事務局まで申込み下さい。

お問合せ・連絡先（協働編集事務局）

神奈川県自然環境保全センター 自然保護課 大木伸一

〒243-0121 厚木市七沢657 電話：046-248-6682 ファックス：046-248-0737

問い合わせフォームURL：<http://www.pref.kanagawa.jp/sosiki/kannou/1644/index.html>

丹沢ボラネット瓦版12月号

2009年12月20日発行

丹沢大山ボランティアネットワーク（世話人代表 奥津昌哉）

神奈川県

このページの所管所属は [自然環境保全センター](#) です。